

第10回 おうちで

ロボットサイエンスカフェ

ヒトの顔とロボットの顔：科学と工学で探る「顔らしさ」

私たちは、毎日たくさんの「顔」と向き合って生きています。家族の顔、友だちの顔、スマホに映る自分の顔、そして最近では、ロボットの顔まで。でも、「顔らしい」って一体なんでしょう？ ロボットに目と口をつけたら、それはもう「顔」になるのでしょうか？ 私たちの脳は、どんな風に「これは顔だ」と判断しているのでしょうか？ 今回、大阪大学の「顔」に関する工学と脳科学の研究者が、ロボットと人間の顔についての最先端の研究を紹介します。

2025年 **8月17日** 
14:00 ~ 16:00

参加登録・HP



<http://osku.jp/d0648>

参加費 無料

会場 Zoom 定員 500 名・先着

対象 高校生から大人向け

プログラム

14:00 ~ 14:10

共生知能システム研究センター
のご紹介

14:10 ~ 14:45

石原 尚 大阪大学 大学院工学研究科 准教授
人間の顔を真似るロボットの仕組み

14:50 ~ 15:25

中野 珠実
大阪大学 大学院情報科学研究科 教授
人間の顔をみる脳の仕組み

15:30 ~ 16:00

ディスカッションタイム



石原 尚

大阪大学 大学院工学研究科機械工学専攻
准教授

自己紹介

高 校：広島大学附属高等学校

大 学：大阪大学 工学部応用理工学科

大学院：大阪大学 大学院工学研究科 知能・機能創成工学専攻

専 門：アンドロイド工学、ロボティクス、
ヒューマン・ロボット・インタラクション

趣 味：アンドロイド開発

好きなアンドロイドの仕草：あくび

今年の目標：体調を崩さない



トークの概要

アンドロイドロボットの顔は、人のような皮膚を動かして表情を作る装置です。「柔らかい皮膚を動かす」機能は人らしくするために重要なものの大変に厄介で、うまく作るのは簡単ではありません。皮膚をどんな素材でどう作るか。どんな機械で皮膚のどこをどう動かすか。そもそも、人の顔はどう動いていて、どの動きがどの情報を伝えているのか。また、うまく作れたかをどう評価するかなど、考えなければいけないことが盛りだくさんです。アンドロイドの顔の仕組みを見ていくことで、私たちの顔の複雑さと不思議さに触れてみましょう。

メッセージ

高校生の頃、スティーブン・スピルバーグ監督作品の映画「A.I.」を観ました。その映画の中で、幼い子どもの心を持った男の子のアンドロイドロボットが自分の切なる願いをどうにかして叶えようと葛藤の中旅路を進む様子に心を打たれました。その頃は、こんなアンドロイドもいつか実現される未来が来るのかなあと漠然と捉えるのみでしたが、今は、どうやったらそんなアンドロイドを作れるかを考える立場に自分がいます。皆さんも将来、未来を作る立場になります。どんな未来が良いか、漠然とでも考えておくとういかもしれません。



中野 珠実

大阪大学 大学院情報科学研究科 マルチメディア工学専攻
教授

自己紹介

高 校：女子学院高等学校

大 学：東京大学 教育学部 身体教育学科

大学院：東京大学 大学院教育学研究科
身体教育学コース

専 門：認知神経科学、発達・生理心理学

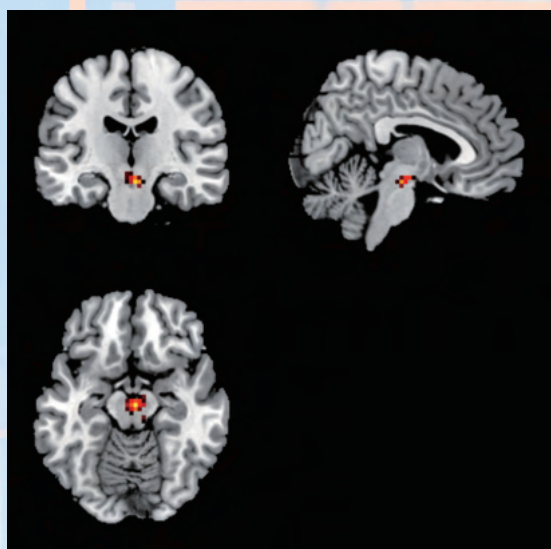
趣 味：家庭菜園、読書、ゴルフ

好きな言葉：

僕の前に道はない。僕の後ろに道はできる。

今年の目標：

ゴルフを始めたので、毎日素振りをして上達する。



トークの概要

私たち人間は、他者の顔から様々な情報を読み取ることで、高度な集団社会を形成しています。さらに、鏡や写真を通して自分の顔を見ることで、自己に関わる意識にも影響を与えています。本トークでは、顔をどのような仕組みで人間の脳が認識しているか、SNS時代に、写真の加工によって自己像に歪みがでてしまうのはなぜかなど、顔研究の最前線を紹介します。一緒に、“顔とはなにか”の科学を解きあかしましょう。

メッセージ

誰もが気になる「自分とは何か」、「人間とは何か」という哲学的かつ生存的な疑問に、真正面から取り組むことができるのが、認知神経科学という学問分野です。日常の出来事における素朴な疑問が研究のアイデアにつながってくることが凄く面白いと思っています。講演の内容をもっと深く知りたい場合は、「顔に取り憑かれた脳」 中野珠実 著（講談社現代新書）をお読みいただければと思います。心理や脳の研究方法についてもわかりやすく紹介しています。

おすすめの映画：ガダカ、マトリックス

